

学校法人 天周学園 若草幼稚園

言語についての方針

Language Policy

2020年1月



若草幼稚園

限りない学び、可能性、夢への出発点

私たちの使命

自己の生存や成長があらゆる他者とのつながりによって
成り立っていること（縁起）を理解し、
異なる他者に感謝と敬意の心をもって互いに学びあいます。

～私たちが提供する教育～

生徒主体の教育

遊びを通じた探究型学習

心身の調和がとれた生活習慣

コミュニケーション能力の育成

国際感覚の育成

私たちのビジョン

心身の調和がとれた、
生涯にわたって学び続ける人を育てます。

自ら考え課題を解決する自信と、
友達と助け合う喜びに満ち、
世界平和に貢献する人を育てます。

～私たちが大切にしている 5 つの価値～

慈悲の心

やりぬく意志

創造する力

挑む力

協力する力

私たちは以上の基本理念と価値観を共有し、その実現のために、文部科学省の定める「幼稚園教育要領」に加え、国際バカロレア機構（IB 機構）の提唱する指導方法を取り入れて教育実践をしていきます。

教育理念

目次

1. 言語についての方針

2. 言語習得のねらい

2-1 園の言語習得についての考え方

2-2 共通理解

2-3 母語について

2-4 付加言語について

3.言語学習領域

3-1 母語の学習領域

口語言語

視覚言語

書記言語

3-2 付加言語の学習領域

英語学習の目標、特色、携帯、学習領域

口語言語

視覚言語

書記言語

4.参考文献

言語についての方針

人は知覚によって外的および内的対象（色：感覚）と接触し、認識（受：物の見分け）、編成（想：過去の知識との比較構成）、意志作用（行：意志の力）を経て自己と世界を自覚（識：意識）します。

このプロセスで構築される新しい意味を、社会的相互作用によって確認し、発展させるのが言語です。その意味で、言語は私たちの学習を支える大切な基礎といえるものです。

また、身体言語を含めた様々な方法による表現活動も広い意味での言語として捉えられます。それらすべてが、人と人を結び付け、思いやりの心を伝えられる手段であり、人生をより豊かにすることを可能にします。

若草幼稚園は、以上の観点から、言語学習が児童の総合的な発達の基礎であり、全人的な教育に欠かせないものであると考えています。

* 仏教における五蘊の思想

色（感覚／sensations）

受（物の見分け／perceptions）

想（過去の知識との比較構成／formations）

行（意志の力／volition）

識（意識／consciousness）

2. 言語学習のねらい

2-1 園の言語習得についての考え方

言語は、意味の構築において必要不可欠な存在です。児童を助け、概念の形成や批判的思考（クリティカルシンキング）を支援する知的な枠組みを提供します。言語は、フェーズを追って習得しなければならない一連のスキルとして学ぶより、意味のある文脈の中で学習に取り組む機会があってこそ、児童のニーズを最も効果的に満たすことができると信じています。

特に3歳から6歳の幼児期には、それぞれの子どもの直接的な生活経験や個人的な情意、ニーズや興味に応える言語教育が必要です。また、新しい言語を獲得する意欲を喚起するためには、児童がその学習に意義と喜びを感じる、発達段階に応じた内容であることが必要です。

本校の第一言語は日本語です。母語の発達は認知発達と文化的アイデンティティの保持においてきわめて重要であり、児童が異文化に対する知識と理解を発達させる可能性を保持し、母国の言語、文学、および文化との接点と誇りを維持することを可能にします。本校では母語をベースとした言語学習環境を提供します。

国際的な視野の形成を奨励する本校は、異なる言語を理解し、それにより異なる文化や観点を理解することは、全ての児童に良い影響を与えると信じています。従って本校は生徒たちに、母語をベースにしながらいながら園生活の中で外国人講師とコミュニケーションをとったり、異

文化に触れたりする環境を提供します。複数言語の習得は人間的な発達につながり、国際的な視野の形成を促すと信じています。

本校は、全ての生徒に対して、学習プログラムと園での社会生活に深く参加し個人として成長するための環境と必要な言語のサポートを提供します。したがって、全教師は、そのために必要な言語の発達についての評価とサポートの責任があります。全ての教師は言語の教師であると認識し、生徒が成功する機会をもつよう、より良い言語指導と学習の環境を構築するため日々努めます。

2-2 共通理解

本校のすべての生徒は・・・

- ①意味の構築の基本となる母語の習得を大切にします。
- ②異なる言語に触れて多様な表現、文化があることを学びます。
- ③絵画、音楽、ダンスなど言葉以外の豊かな表現方法があることを学びます。
- ④自分の思いや考えたことを、話すことによって相手に伝える経験をします。
- ⑤文字、数字、マーク、図画、絵本などの視覚教材、人の表情、ボディランゲージを読み取り理解する力を身につけます。
- ⑥本に親しみ、ストーリーを楽しみます。
- ⑦本を通して色々な情報を見つけることができることに気づきます。
- ⑧相手を尊重し集中して聴くことができます。

- ⑨ 自分の考えや思いを人前で説明することや発表することができます。
- ⑩ 他の人から学びを得ることができることを知って、友人たちとのディスカッションに参加し、話したり、質問したりすることができます。
- ⑪ 文字そのものに興味を持ち、書くこと、表現することを楽しみます。

2-3 母語について

本校の生徒の大半は、日本語を母語としており、それ以外の言語を母語とする生徒は少数に限られています。そこで、今後、入学を検討する児童の母語が日本語以外の場合、その保護者には事前面接の場で以下の2つについて尋ねます。

1. 母語をどのように育てる考えを持っていますか？
2. 母語を学ばせるために家庭ではどのようなサポートを計画していますか？

この面接の中で、教師と保護者はどのように母語を大切にしていけるかについて相談し、協力体制を整えます。場合によっては、保護者に生徒の母語の書籍を図書室に寄付することをお願いすることがあります。

2-4 付加言語について

本校の第1言語は日本語ですが、生徒たちの国際的な理解力を養うため、2003年から15年以上に渡り英語教育を実施してきました。園の英語教育はこれまで様々な国籍の講師達に支えられ、カリキュラムも

少しずつ改善されてきました。現在の英語教育プログラムは、計画・指導・振り返りのカリキュラムを外国人講師達と園の教師たちが協働しながら開発しています。生徒たちの成長段階と学習進度に合わせ、試行錯誤を繰り返し、生徒がより効果的に学び実践力を養えるよう、現在も日々改善されています。現在本校のプログラムは、年少、年中、年長の全学年で提供されています。

また希望者には、ニュージーランドの姉妹提携幼稚園3園への‘親子留学体験’の機会を提供しています。姉妹提携園の園長先生をお招きして現地の教育の状況などのお話を伺ったり、スカイプを通して留学中の生徒と交流したり、帰国後に体験談を共有したり、園の教師達も研修に行ったりと、様々な形で提携校との交流を行っています。

3.言語学習領域

3-1 母語の学習領域

【年少】

口語言語 (聞くこと・話すこと)	視覚言語 (見ること・発表すること)	書記言語 (読むこと)	書記言語 (書くこと)
<ul style="list-style-type: none"> ・教師の話に興味を持ち聞こうとする。 ・簡単なゲームやごっこ遊びを楽しむ。 ・子供の話をきちんと聴く大人から、聴く姿勢を学ぶ。 ・教師の真似をしながら一緒に歌うことを楽しむ。 ・「おはようございます」「こんにちは」「ごめんね」「ありがとう」の挨拶を知り、場面に合った言葉を使う。 ・「ありがとうございます」「お願いします」など、「～です」「～ます」を使った丁寧な言葉で話す。 ・自分の思ったことを先生に伝えることができる。 ・何を作ったか伝えることができる ・「かして」「いいよ」などの短い言葉を使って自分の思いを伝える。 ・思った事・感じた事をその場で教師や友達に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の遊びを見て、真似て遊び始める。 ・教室に掲示されるスケジュールを教師と見て一日の流れを知る。 ・絵や写真を興味深く見て、「これなあに？」など疑問を持つ。 ・思ったことを教師に伝えることができる。 ・クラスのマーク・自分の名前のマークを覚え目印とする。 ・絵本を読んで教師と一緒に振り返り、物語の主旨を知り、その場面を真似ようとする。 (例：手洗いの絵本、友達と喧嘩した後の仲直りの絵本) ・気に入った絵本の絵を繰り返し見ることを楽しむ。 ・問いかけに対して身振りや手振りを使って反応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師に絵本を読んでもらう事を楽しむ。 ・読み聞かせや朗読を楽しみながら、物語を読み取りイメージが出来るようになる。 ・好きな絵本の絵を見て楽しみ、お気に入りの物語を教師に伝える。 ・読み聞かせの中で、興味を持った絵を指さしなどで教師に伝えようとする。 ・読み聞かせの中で、感じた事や疑問に思った事をその場で教師に話す。 ・絵本の場面を見て、正しい行動を考えることができる。「こんな時どうすればよいか」「何と言ったらよいか」など。 ・絵本の表紙を認識し、正しい方向でページをめくり絵本を楽しむ。 ・物語に出て来る動物や人に対して、悲しそう・嬉しそうとそれぞれの気持ちを感じ取ることが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クレヨンを使って紙いっぱいに絵を描く。 ・友達や教師が表す「絵」に興味を持ち、真似ようとする。 ・教師の見本を真似て、簡単な形（○、△、□）を書く。 ・描いて欲しい絵を教師に伝える。

<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたいこと、したくないことを首振りで伝える。 ・絵本を見ながら感じたことを口にしたり、指差しをしたりして反応する。 ・肩をたたいたり、友達の名前を呼んだりして話かける。 ・物や場所、人の名前を繰り返し使う中で、語彙を増やす。 ・自分の知っている簡単な言葉やジェスチャーで、物事を伝えようとする。 ・耳にした言葉やリズムを覚えて口にする、真似をしようとする。 ・名前を呼ばれたら手を挙げて返事をする。 ・教師の話聞いて行動する。 ・絵本や紙芝居を見て、思ったことを教師に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「大きい/小さい」「高い/低い」などの言葉を対象物を見ながら理解する。 ・「色」、「形」の違いを認識し、その名称を答えることができる。 ・劇遊びの中で、友達と一緒に歌やセリフを言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「何て書いてあるの？」と質問したり、自分で読めない部分の代読を大人にお願いしたりする。 ・教師の手本を真似て、「りんご」「さくらんぼ」などのリズムを楽しむ。 ・くり返しやリズムのある言葉遊びを楽しんで真似る。 ・ボードや掲示物などに示された文字や絵を教師と一緒に見て、その意味を知る。 ・自分の名前と同じ平仮名を見つけて反応する。 ・知っている数字や記号を遊びの中で見つけることができる。 (例:「1号車の”いち”!」) ・自分の名前や友達の名前を形で判別する。 ・異なる文字、マークには異なる意味があることを理解し、自分や自分の持ち物の帰属先を区別することができる。 	
--	--	--	--

【年中】

口語言語 (聞くこと・話すこと)	視覚言語 (見ること・発表すること)	書記言語 (読むこと)	書記言語 (書くこと)
<ul style="list-style-type: none"> ・教師・友達の話を最後まで聞く。 ・4Lを身につける。 ・ルールのあるゲームやごっこ遊びのなかで友達とのコミュニケーションを学ぶ。 ・友達と一緒に歌を歌うことを楽しむ。 ・自分から進んで挨拶が出来るようになる。 ・「誰が」「何を」「どうしたか」文章を組み立てて話をする。 ・少人数で話合いが出来る。 ・自分が作った作品について、何をどのように作ったか、話す事が出来る。 ・嬉しかったこと、悲しかったことなどの感じたことを自分の言葉で伝えようとする。 ・絵本をみて、見つけたことや感じたことを教師に伝えようとする。 ・物や場所、人の名前など覚えた言葉を使い、相手に伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数の前で自信をもって自分の伝えたいことを伝えることが出来る。 ・友達の発表を見て、友達プレゼンテーションの良いところを見つけることができる。 ・教室に掲示されているスケジュールを自分で見て、一日の流れを知る ・遊びや生活の中で、表情・ジェスチャー・ボディランゲージを見て、伝えたり読み取ったりすることができる。 ・絵や写真を見て反応することが出来る。 ・身の回りにあるマークが何のためにあるのか疑問をもつ。 ・文字、漢字、片仮名、数字、平仮名、記号を区別することが出来る。 ・絵本の中の楽しかったページを友達と共有しようとする。 ・劇、紙芝居、ペープサート、エプロンシアター、絵本など物語を伝える方法がたくさんあることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵と文字を見分けることが出来る。 ・遊びや活動の中で数や文字に触れ、身につけられるようにする。 ・身近にあるシンボルや文字を見てどんな事を伝えようとしているか興味を持つ。 ・ボードや掲示物の文字に興味をもって読み、意味を理解しようとする。 ・掲示物を見て1日のスケジュールを理解する。 ・時計の数字を見て行動する。(10になったらお片付け等) ・自分の名前を探すことが出来る。 ・読める文字や数字、記号を日常生活の中から見つけ、声に出して読もうとする。 ・楽しかった絵本を友達と共有し合う。 ・図鑑や絵本の好きなページを見つけ、繰り返し読むことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机に向かい正しい姿勢で文字や絵を書く。 ・絵の具を使って、楽しんで描く。 ・絵を描くときに、描くものに合った色や形を選ぶことが出来る。 ・カルタ遊び等で、文字の形と音を理解する。 ・ごっこ遊びの中で文字や数字を取り入れてみようとする。 ・教師が書いた文字や絵に興味を持ち、真似ようとする。 ・自分が書きたい文字の”書き方”に疑問を持ち、「どうやって書くの?」と質問したり、実際に書こうと挑戦してみたりする。 ・自分の下の名前を書くことが出来る。

<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや伝えたいことを言葉で表現しようとする。 ・質問に対し自分の知っている言葉で答えようとする。 ・教師の複数の指示を理解して行動する。 ・体を使って「大きい・小さい」「長い・短い」「強い・弱い」「嬉しい・悲しい」などの対比を表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・劇遊びの中で、自分のセリフを覚え人前で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図鑑や絵本を見て、文字に興味を持ち、文字の形を覚えながら読もうとする。 ・絵について教師や友達ちに問いかける。 ・ストーリーを理解し、教師の質問に反応する。 ・絵本を読んで自分の経験と結びつけながら話を解釈し、登場人物の気持ちを考えることができる。 ・表紙の文字やイラストから、本の内容を理解し自分が読みたい本を選ぶことができる。 ・チャンツ、詩、歌、言葉遊び、手拍子、ゲームに参加して、指示の言葉や音声、パターンに親しむ。 	
---	---	--	--

【年長】

年長口語言語 (聞くこと 話すこと)	年長視覚言語 (見ること・発表すること)	年長書記言語 (読むこと)	年長書記言語 (書くこと)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団ゲームやごっこ遊びのなかで友達と言葉を交わしあう。 ・ 歌詞の意味を理解し、歌詞に合った振り付けを友達と一緒に考え歌うことを楽しむ。 ・ 挨拶を交わす事が気持ち良いと感じ、コミュニケーションの方法として積極的に使う。 ・ 現在、過去、未来によって言葉が変わることを知り、使い分ける。 ・ 友達の意見にも耳を傾け、自分と違う意見があることを知り、認め合う。 ・ 異なる意見の中から自分たちの答えを話し合っで導くことが出来る。 ・ 疑問に思ったことを質問する。 ・ 物や場所、人の名前を用いて、物事を説明することができる。 ・ 嬉しかったこと、楽しかったことなどの感じたことを友達や教師と共有しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大人数の中で、自分の意見を発表できる。 ・ 教室に掲示されるスケジュールを見て一日の流れを知り、次の活動を予測して行動する。 ・ 友達の様子や表情を見て状況を理解しようとする。 ・ 絵や写真を見比べ・共通点・相違点を見つけることが出来る。 ・ 身近な標識やマークの意味、また そこに存在している理由が分かり、その指示に従うことができる。 ・ 友達の作品を見てその良さを伝え合い、自分の作品に活かす事が出来る。 ・ 自分の描いた絵にストーリーを付ける事を楽しみ、友だちと見せ合う。 ・ 物事を相手に伝える際、身振り手振りを活用し、わかりやすく人に伝えようとする。 ・ 自分の役になり切り感情をこめて歌やセリフを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が記した一日の流れを理解し、見通しをもって行動することが出来る。 ・ 身の回りにはマークや文字でメッセージを伝えているものがたくさんある事を知り、それに合わせた行動をしようとする。 ・ 数を数える時、長さを図る時などに数を活用する。 ・ 大人が読み聞かせた絵本を自分でも読もうとする。 ・ 教師を真似て読み聞かせたり、友だち同士絵本を見せ合ったりして話をする。 ・ 自分が調べたいことや知りたいことを絵本や図鑑を用いて知識を得ようとする。 ・ 自分の知りたい事に関わる絵本や図鑑を選び、新しい知識を友達と共有する。 ・ 絵本に出てくる登場人物の気持ちを自分に置き換えて考えることが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な道具に触れ、楽しく制作が出来る。 ・ 絵を描く時、生活経験や絵本からのイメージを受け自分なりの思いを色や形で表現する。 ・ 描きたいもののイメージに合った色や形を使い分けて描き、それを選んだ理由を説明することが出来る。 ・ 教師が描く絵から発展させて絵を描くことを楽しむ。 ・ 自分が興味のあるものを、図鑑や絵本を参考に、観察しながら書こうとする。 ・ 平仮名、片仮名、漢字、数字、アルファベットなど、様々な「文字」に興味を持つ。 ・ 何と書いてあるか、知っている知識を使って予測したり友達と教え合ったりする。 ・ 教師が下書きとして書いた文字をなぞり、真似て書くことに挑戦する。 ・ 自分の名前が書ける。

<ul style="list-style-type: none"> ・自分がどう感じたか、理由を添えて伝えることができる。 ・教師の問いの意味を理解し自分の知っていることや感じたことを言葉で伝え行動で示すことが出来る。 ・毎日のルーティーンを覚え教師の指示がなくても行動することが出来る。 ・国によって話す言葉が違うことを認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語を伝えるための適切な方法を選び、発表しようとする。 ・様々な歌やリズムを知り、好きな歌を友達と一緒に歌うことや同じリズムで音がそろそろ気持ちよさを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語に込められたメッセージ（教訓など）を理解することができる。 ・絵本を読み終えた後、登場人物の気持ちを考え、感じたことを友達や教師に伝え、共有することができる。 ・絵本で得た知識を活用して自分の行動に移すことが出来る。 ・物語には起承転結等の流れがある事を知る。 ・歌詞の表示を目で追い、歌を歌うことが出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字や数字、記号の違いを理解し、使い分けをして表記しようとする。 ・書ける文字を使い、文章を作ることができる。それをういて、「手紙ごっこ」「物語を作って遊ぶ」など、遊びを広げられる。 ・自分の考えを、文字に表して記録する。人前で発表したり、友達に教えたりする時に役立てられる。
---	---	---	---

3-2 付加言語の学習領域

英語学習の具体的な目標

- ・英語に親しみ、遊びや楽しい活動を通して体験的にその言語と文化を学びます。
- ・国際的で文化的な体験を通して、言語や文化についての理解を深めます。
- ・学んだ単語や表現を使い、積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を身に着けます。
- ・英語を聞く、話す、見る、発表する、読む、書くこと学び、英語表現の基礎力をつけます。

英語クラスの特徴

- ・年少以上の全ての学年で英語のレッスンを行います。
- ・英語指導のエキスパートと保育の専門教師が協働し、生徒のレベルに合ったプログラムを提供します。
- ・生徒が日常的に使う言葉や身の回りのものに着目し、生徒が使える英語を指導します。
- ・英語講師の英語をたくさん聞き、英語独自のリズムや発音に慣れ親しみます。
- ・様々なトピックを、歌やチャンツ、絵本や動画、ゲームなど様々な視覚音声教材やツールを使って、楽しく体験的に学びます。

【Conceptual understandings】

<ul style="list-style-type: none"> ・ Spoken words connect us with others. 言葉は、自分と周りの人をつなげる ・ People listen and speak to share thoughts and feelings. 私たちは、聴いたり話したりすることで、思考や感情を共有する ・ People ask questions to learn from others. 私たちは、質問することで、他人から学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Visual languages all around us deliver meanings. 視覚言語は私たちの周りにあり意味を伝えている ・ The pictures, images, and symbols in our environment have meaning. 写真や絵やシンボルには意味がある ・ We can enjoy and learn from visual language. 私たちは、視覚言語から学び楽しむことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Illustrations convey meaning. イラストは意味を伝える ・ Print conveys meaning. 印刷物は意味を伝える ・ People read for pleasure. 私たちは楽しむために本を読む ・ Stories can tell about imagined worlds. 物語は想像上の世界を表現できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Writing conveys meaning. 書記言語は意味を伝える ・ People write to tell about their experiences, ideas, and feelings. 私たちは、自分の体験や考えや気持ちを伝えるために書記言語を使う ・ Everyone can express themselves in writing. 全ての人は自己表現に書記言語を使うことができる
--	---	---	---

【K1】

口語言語 (聞くこと 話すこと)	視覚言語 (見ること・発表すること)	書記言語 (読むこと)	書記言語 (書くこと)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の音に慣れ親しむ ・ 簡単な単語を言ったりリピートしたりする (色、形など) ・ 主語 'I' の意味を理解し、簡単な挨拶をする。 ・ 先生の指示を理解する ・ 視覚情報を理解し、遊び、ジェスチャー、表情を通じて (その理解を) 表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚テキスト (マーク・シンボル) と自分の名前 (アルファベット) とのつながりを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 洋絵本の読み聞かせを楽しむ 	

【K2】

口語言語 (聞くこと 話すこと)	視覚言語 (見ること・発表すること)	書記言語 (読むこと)	書記言語 (書くこと)
<ul style="list-style-type: none"> ・先生の指示やルーティンを理解し従う ・簡単な単語を言ったりリピートしたりする ・単純な質問を理解し、言葉や行動で応答する ・挨拶の種類を増やす ・クラスメイト、先生、馴染みのある教室および園庭にある物の名前を挙げる ・自分の生活につながる言葉や、身の回りにある語彙を増やす <p>主語'I'と'You'の意味を理解し、簡単な自己表現をする 例： I am….' I like ….'</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動きやジェスチャー、表情から視覚情報の理解を示しながら注目する ・広告、ロゴ、ラベル、サイン、ポスター、絵本、旗、プリント、その他印刷物などの視覚テキストに、アルファベットの名前を認識する ・プリント、その他印刷物などの視覚テキストに、自分の名前を認識する 	<ul style="list-style-type: none"> ・洋絵本に親しむ ・好奇心を示し絵や文字について質問する ・注意して聞き、読み聞かせの物語に反応する ・自分の名前を認識するアルファベットの大文字小文字に親しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことを楽しみ頑張って書いたことに価値をおく ・自分の名前（アルファベット）を自分で書くことに挑戦する ・アルファベットの大文字・小文字に親しむ

【K3】

口語言語 (聞くこと 話すこと)	視覚言語 (見ること・発表すること)	書記言語 (読むこと)	書記言語 (書くこと)
<ul style="list-style-type: none"> ・必要なコミュニケーションのため、またはアイデアを表現するために、ジェスチャー、動き、ボディランゲージ、および言葉を使う ・絵本を聞いて応答する、喜びを表現する、ジェスチャー、表情、および言葉を通して理解を示す ・詩、韻、歌を覚え唱和する 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚テキストに関連した英語を聞いてその意味を理解する ・文脈を示す視覚的な手掛かりを見つける 例：絵合わせなどにより理解を示す ・指を指したり、ジェスチャー、表情などのボディランゲージを使い、コミュニケーションをしたり、伝えたりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの洋絵本に親しみ、タイトルを教師と一緒に読む ・読み聞かせに参加し、韻、繰り返し部分を唱和する。 ・アルファベットの大文字と小文字を学びと音フォニックスの基礎を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットの大文字・小文字を書くこと楽しみ、頑張ったことに価値を置く ・アルファベットの文字と音の関係に気づく ・書かれたテキストに興味を示したり、英単語について質問したりする

<ul style="list-style-type: none"> ・人々が異なる言語を話すことに気づく ・2段階の指示を含む先生の指示やルーティンを理解し従う ・挨拶など学んだ英語の表現を使い、積極的にコミュニケーションをとる姿勢を示す ・主語'I'、'You'、'We'の意味を理解し、簡単な自己表現をする 例： 'I'm….' 'I like ….' 'I want….' ・簡単な質問を英語でする 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の名前や友達の名前を認識する 	
--	--	---	--

4. 参考文献 References

‘Making the PYP Happen : A curriculum Frame work for International primary education, 2016’

‘Guidelines for developing a school language policy, 2008’

‘Language scope and sequence,2019’

『IB プログラムにおける「言語」と「学習」』

『サニーサイドインターナショナルスクール 言語方針』

『町田こぼと幼稚園 言語方針』